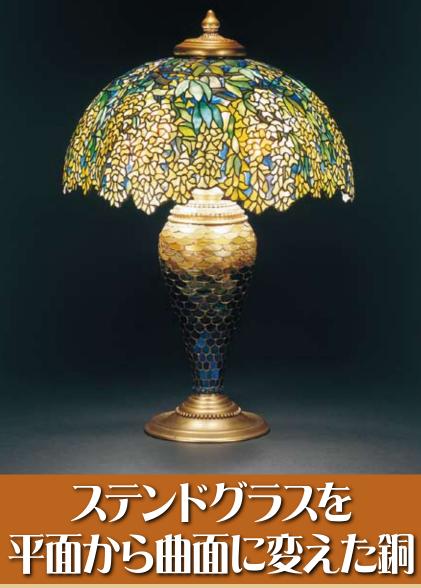
きらめく陽光を通し、 鮮やかに教会の窓を 飾るステンドグラス。そ れは、文字を読めない 人たちにも、神の教え を絵物語として伝える ための厳かな演出だ。 ステンドグラスの起源 は、古代ローマ時代で "ステイン=着色する、 染め付ける"が名前の 由来。焼き絵を施した ガラスという意味を持 つ。それを教会が装 飾窓として採用したこ とで、ヨーロッパ各地 へと広まった。現存す る最古のステンドグラ スは、アルザス地方の ヴィッサンブール修道 院にある11世紀に作 成されたキリストの顔



いった。そんなステンド グラスを、さらに室内 装飾品として普及さ せたのが、宝飾品の ブランドメーカー、ティ ファニーだ。

19世紀のアールヌー ボー期、アメリカのル イ・C・ティファニーは、 画期的なステンドグラ スの技法を考え出す。 それまでステンドグラ スは、鉛のレールにガ ラスをはめ込んで作 成されていたため、大 きなガラスの組合わせ しか使えず、窓などの 平面表現が限界だっ た。そこで着目したの が"銅"。銅の柔軟で 加工性に優れた特性 を活かし、ガラスの縁

を薄い銅テープで巻き、はんだ付けしたのだ。これにより"小さなガ ラスを幾つも自在につなぎ合わせて、複雑な曲面を表現する"こと に成功した。銅テープを使うことで、ステンドグラスの美しい輝きは、 立体的な室内装飾品の世界にも広がっていったのである。

である。その後、ステンドグラスはフランスにおいて、建築窓として 大きく発展を遂げていく。ロマネスク美術、ゴシック美術などの建 築技術の向上とともに、ガラスに鮮やかな絵付けをする技術を高 めたステンドグラスが、教会を光の色彩に満ちた空間へと変えて





ガラスでも場所により微妙に色彩が違う 銅テープは、専用のものが市販されている



一つひとつのガラスに根気良く銅テープを巻く 明かりを灯すと、作品は別の表情を見せて



では、どのようにして銅テープを使うのだろうか。甲府市内でステ ンドグラス教室を開く小菅静穂さんにお話を伺った。

「まずは、設計図となる型紙に合わせ、ガラス板からイメージした 色彩のガラスピースを切り出します。これを型紙の上に載せて、つ なぎ合わせていきます。その際、ガラスピースを銅テープで丁寧に 巻き、はんだ付けします。単純な曲面なら鉛でも可能ですが、ラン プシェードなどの立体的な曲面の作品は、細かなガラスピースをた くさん組み合せますので、銅テープでなければうまく加工できませ んし、仕上がりもより美しくなります」

そう話しながら、ガラスピース一つひとつに愛情を込めて銅テー プを巻き続ける小菅さん。テープは、厚さ0.05mmくらい、幅は3.5~ 6mm程の各種。フラックスを塗り、はんだを溶かすと銅テープと自然 に接合していく。最後にブラックパティーナと呼ばれる薬品で黒く仕 上げて完成。小菅さんにとって、ステンドグラス作りの魅力とは。

「ステンドグラスは、光を通した時、通さない時、それぞれの美し

さを同時に表現することが大切です。 一枚一枚ガラスを光に透かしながら、 ここだという箇所の色彩のガラスピース を選び、切り出していきますが、なかな か自分のイメージ通りの完璧なものはで き上がりません。この難しさが、次の創 作意欲をかき立ててくれるのです」。

